



①会場の静岡県立美術館



②会場受付

公益財団法人しずおか健康長寿財団および静岡県の主催による第23回静岡県すこやか長寿祭美術展が令和初となる1月の24日(金)～2月2日(日)、静岡県立美術館県民ギャラリーにて開催されました。(写真①②)

本美術展は高齢者の創作する作品を募集、展示することにより、ふれあいと生きがいづくりを推進するとともに、高齢者の文化活動を促進することを目的に開催しています。また、今年10月に開催される「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2020)美術展」への代表作品の選考も兼ねています。

展示作品は日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門から成り、今回は合計270点の作品が出品されました。



③展示コーナー



④表彰式会場

審査は各部門2名ずつの審査員により選考され、優れた作品には「静岡県知事賞」、「しずおか健康長寿財団理事長賞」、「後援者特別賞(静岡新聞社・静岡放送賞、中日賞)」、「金賞」、「銀賞」、「銅賞」のほか「最高齢者賞」が授与されます。

それでは各部門の静岡県知事賞の受賞作品からご紹介してまいります。
※各寸評は各部門の審査員によるものです。



[⑤「憩いの樹」](#)

【写真⑤】日本画部門「憩いの樹」 藤井克治さん(81歳 浜松市中区)
爽やかな緑陰に大きな樹がどっしりと描かれている。静の樹と対称的に動きのあるリスを丹念に表現した楽しい作品である。リスの位置と向きが見る人を惹きつけている。



[⑥「WINDOW」](#)

【写真⑥】洋画部門「WINDOW」 西原一美さん(69歳 浜松市中区)
幾何学的な構成。3人の子供達が人形か？踊っている。中央の赤いフォルムが風を思わせる。乱れた髪が不思議な臨場感を醸し出した、若さにあふれる今日的な傑作である。



[⑦「おかあちゃん」](#)

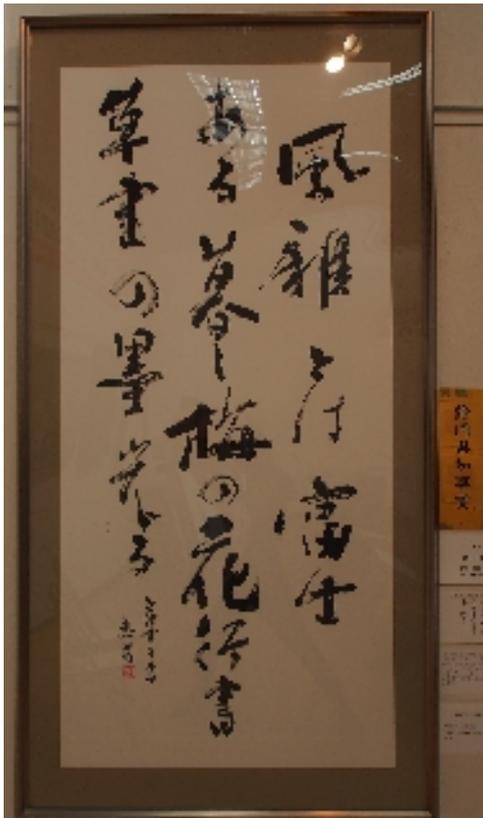
【写真⑦】彫刻部門「おかあちゃん」 田邊 悟さん(78歳 牧之原市)
二人の子供を抱えた母子像です。重量感と安定感があり、抱き着く左右の子供たちをしっかりと支える力強い両腕から母と子の信頼が伝わる。慈愛に満ちた母の表情が良い。



[⑧「爽\(そう\)」](#)

【写真⑧】工芸部門「爽(そう)」 森脇弘子さん(74歳 浜松市西区)
革を染め、形や質感などを異素材のように表情を変えたパーツを組み合わせて一つの作品に昇華させて

います。構図も楽しくバランスの取れたセンスの光る作品です。



⑨「富士と書」

【写真⑨】書部門「富士と書」 神谷知恵子さん(76歳 浜松市南区)
筆の動きが大きく、題材の気持ちをうまく表現された美しい作品です。文字の配字、全体の構成力がすぐれ第一席としました。



⑩「くすぐったいよ！」

【写真⑩】写真部門「くすぐったいよ！」 北山末子さん(74歳 浜松市北区)
おばあちゃんの自然な笑顔を目撃てこれだと決めました。この作品を観て笑顔にさせられない人はいないでしょう。瞬時に生活感あふれる場面を撮られた技量に敬意を表します。

次に各部門のしずおか健康長寿財団理事長賞の受賞作品です。



⑪「宵待」



⑫「Sai(II)」

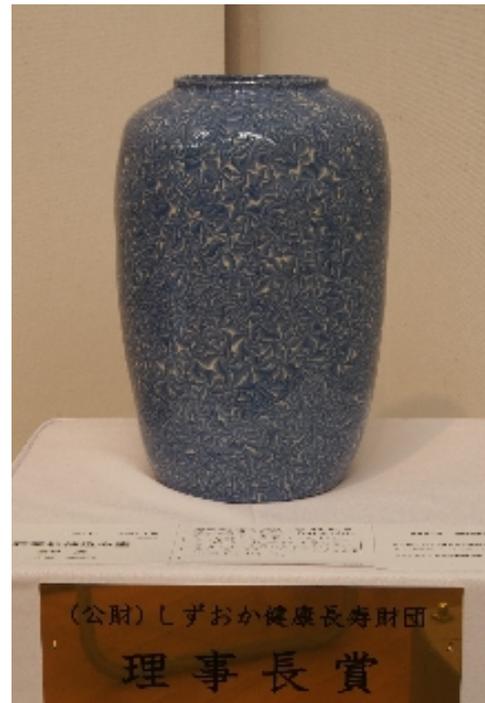
【写真⑪】日本画部門「宵待」 池谷千恵子さん(79歳 清水町)
描写、色彩、構成いずれも手堅く力量を感じさせる。声高な点は全くないが静かに存在感を発している。素晴らしい作品だと思います。

【写真⑫】洋画部門「Sai(Ⅱ)」 藤原秀夫さん(70歳 焼津市)
野原で花を摘む親子を画面に大きく描いたことで、お互いの会話さえ聞こえてくるようです。描写力に優れた作品で、人物の配置や野の花を描いた場所も適格で優れた作品です。



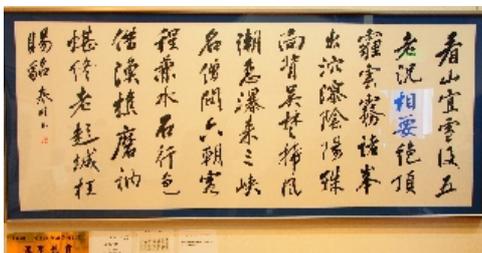
⑬「若い女」

【写真⑬】彫刻部門「若い女」 大場啓史さん(83歳 松崎町)
モデルの美しさを、良く引き出している。細部に対する表現に、粘り強く、ていねいに食いついている。人体頭部の骨格、顎と鼻の構成が正確で確実であり、存在感がある。



⑭「石華紋練込み壺」

【写真⑭】工芸部門「石華紋練込み壺」 藁科剛一さん(87歳 焼津市)
青に統一された練込みの作品で丁寧で熟練した技術により、グラデーションも美しく、完成度の高い作品となっています。更なる展開が楽しみな作品です。



⑮「王漁洋詩」



⑯「お見合は氷上で」

【写真⑮】書部門「王漁洋詩」 八木春畦さん(63歳 静岡市清水区)
全体的に余裕ある運筆、行書作品としての典型。白を生かした気韻生動の力作である。

【写真⑯】写真部門「お見合は氷上で」 小嶋富雄さん(82歳 静岡市葵区)
精進湖から撮影した富士山、笠雲と吊るし雲の勇壮な出会いを題名どおりしっかりとカメラワークで、作品に仕上げられた作者の技術に感心いたしました。

次は後援者特別賞として静岡新聞社・静岡放送賞と中日賞の受賞作品です。



[⑰「あき缶達」](#)

【写真⑰】静岡新聞社・静岡放送賞 「あき缶達」(洋画部門)

千田克洋さん(77歳 島田市)

色調をおさえたグレーの一斗缶全ての口が顔を覗かせている。仲間とは別の丸缶が描かれている。一斗缶の口の位置がそれぞれの人間模様で面白くもあり、シニカルな批評性を感じる。



[⑱「お花畑」](#)

【写真⑱】中日賞 「お花畑」(工芸部門) 塚本初美さん(80歳 静岡市葵区)

緻密な刺繍をベースに、大胆な花のアップリケが施され、お花畑を歩いているような奥行きを感じます。色の構成にめりはりがあり、楽しい作品に仕上がっています。

最後は最高齢者賞です。男女とも1点ずつの受賞作品です。



[⑲「今日もうれしい学校へ」](#)



[⑳「舞」](#)

【写真⑲】「今日もうれしい学校へ」(洋画部門) 堀井昌平さん(97歳 藤枝市)

普段見慣れた小学生の登校風景を暖かい目で見つめ、線描で丁寧に描いています。建物を暗く描いたことで画面が引きしまり、作者の子供に対する暖かい眼差しが感じられます。

【写真⑳】「舞」(書部門) 西澤綾子さん(98歳 静岡市清水区)

百才に近い方と思えない力感あふるる運筆は、後に続く者に生きる勇気を給える作品である。

その他、金賞、銀賞、銅賞の作品が数多く展示され、いずれも素晴らしい力作でした。

厚生労働省が公表している健康寿命で静岡県は常にトップクラスを維持していますが、その理由として、地場の食材が豊富で食生活が豊かなこと、いつもお茶をたくさん飲んでいることなどと言われておりますが、スポーツや文化活動を通じた日常的な人的交流、社会参加も重要であると言われております。今後もシニアの美術、芸術熱がますます高まり、「社会参加」につながることを期待しています。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章